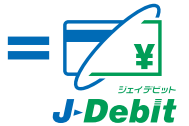


キャッシュカードでも
払えるんです。



J-D Lounge

J-Debit 会報誌 (季刊)

April 2006 (季刊誌 1・4・7・10月発行)

J-D Loungeは会員の皆様と協議会を結ぶ会報誌として、年4回の発刊を予定しています。

J-Debitについて自由に語っていただくラウンジのような情報誌を目指します。

創刊号

INTERVIEW

特集：「私とカード社会」

**能の世界で生きる私と
カード社会は無縁なもの、
とと思っていましたが
意外な接点があることを感じました。**

観世流能楽師 野村四郎

着物姿では、懐に入れた財布が膨らんでいると見苦しいので
買い物をしたり、切符を買ったり、小銭には結構苦労します。
その点、カードは着物と相性がいい。
不思議なものですね。

重要無形文化財総合指定の日本能楽会会員であり、
観世流能楽師・野村四郎氏。能楽の世界で中心的な
活躍をする一方、ワシントン大学やハワイ大学での能
楽指導や、義太夫など他分野芸術との競演など、幅
広い活動でも注目されています。古典芸能の世界で
生きる野村氏は、カード社会についてどのような視点
を持っているのでしょうか。

〈プロフィール〉 野村四郎さん

観世流能楽師。1936年和泉流狂言方六世野村万蔵の四男として東京に生れる。1978年重要無形文化財総合指定。文化庁芸術祭優秀賞・芸術選奨文部大臣賞・紫綬褒章・観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。世界各地での公演に参加する他、大学等で能楽の指導にあたるなど、能楽の普及にも貢献してきた。流儀を超え、能楽界の重鎮として活躍中である。現在、観世会監事。鏡仙会理事。日本能楽会常務理事。東京芸術大学名誉教授。2005年度(第62回)日本芸術院賞を受賞。

能というのは、無駄を省いて本質を追求する芸術です。 カード社会がそのような方向へ成熟していくのであれ

カード社会で、物を持たずに歩く感覚が見直されるかもしれません。

私はカード社会と、およそ無縁な世界で生きていて感じていましたが、実はそうでもないことにこの頃気づきました。普段から着物を着ている人間にとって、財布はたいへんうっとしい存在です。着物を着たときは、大切な物は懐に入れ、袂には余計な物はいれません。ところが懐に小銭などがいっぱい入ったお財布を入れていると、お腹のところがふくらんで見苦しくなります。かさばる物、重い物を身につけたくない。鞆を抱えて歩くのも着物姿には似合わない、せいぜい信玄袋を持つくらい。それが和装の基本です。

買い物をして、小銭をもらうのが一番困るので、カード1枚あればいいというのは、たいへん便利ですね。着物の生活とカード社会は相反するようで、とても相性のよい関係だと思えます。



もともと着物という衣装は、日本の四季を最適に過ごせるように作られています。洋服と違って体にぴったりくつきませんから、空気の層がたくさんできます。それが冬には、保温の働きをします。夏は夏で、風を通します。よく「着物は値段が高い」といわれますが、考え方によってはこれほど得なものはありません。親子3代、100年にわたって同じ着物に袖を通すこともできるのですから。

私は父と背丈がほとんど同じなので、父が来ていたものを着回ししています。父の形見が歩いているようなものですね。体型が多少変わっても、そのまま着続けることができるのもよい点でしょう。

着物を着る人が増えて、「物を持たずに歩く」感覚が見直されれば、J-Debitの普及に貢献できるかもしれませんね。いろいろな物をじゃらじゃら持ち歩く生活は、物欲の固まりみたいでどこか余裕がありません。

世阿弥の書いた風姿花伝の冒頭に、「三重戒」といって、重い三つの「禁」が能を演じる者にはあります。1つが好色。1つが博奕^{ばくえき}。1つが大酒。この3つです。これは昔からの掟である。と、強い語調で書かれています。なかなか守れないから戒めがあるのでしょうか、欲に振り回されていると芸に身が入らないのは確かだと思います。これは別に、能に限ったことではありませんね。

「裏側が大事」という部分が、能とカードの共通点ですね。

そういえば、能とJ-Debitには1つ共通点がありました。裏側がとても大事という点です。能の動きでは、背中が決まるとすべてが決まります。美しい姿の根幹が、背中、つまり裏側にある。

「表裏一体」という表現がありますが、むしろ「裏表一体」といいと思います。それほど、裏側は重要です。

屋外で能が催されていた頃、陽が降り注いでいる午

余分なものを持たない。本質を考える。 ば、面白いですね。

前中の演じ方は低く抑えた声を使い、陽が傾いてきた夕刻はその逆で、高い調子を出す。常に表裏というものがあって、1つの世界が形作られています。

カードは内部に大切な情報があるのですから、似ていますね。日本の伝統文化とカード社会。これも表裏でしょうか。

私がJ-Debitを最初に利用したのは、能楽堂に隣接した渋谷のホテルでした。仲間と食事した際に使いました。仕事柄いろいろな人と食事をしたり、一杯飲んだり、予定以上の人数を連れて行くこともしばしばで、そうしたとき人を待たせながら、現金を出して領収書をもらって…なんてやっていられませんから、J-Debitは便利だと思います。

地方へ出かける機会も多いので、ホテルや飲食店など「どこでもJ-Debitが使える」となればさらに使い勝手がよ



くなりますね。

ところで、能の世界で生きている私がカードの便利さを最初に感じたのは電車でした。私は「電車派」です。舞台のある日は、決して開演時間に遅れるわけにはいきません。時間を読むことのできる電車をなるべく利用することにしています。JRのスイカを懐から出してスッと通るのですが、快適ですね。切符を買う手間もなければ、小銭のわずらわしさもない。1度利用して便利さに気づくのは、J-Debitも同じです。できることならJ-Debitとスイカが1枚のカードになってくれたら、ということはありません。



無駄なものを削っていくと、人間の技量が問われるようになります。

能の演目は、人間にとって普遍的なもの、たとえば生死をテーマにしています。普遍的なものを表現するために、無駄な動きを削りに削っていきます。そうすると動作はエッセンスだけが凝縮されて、とてもゆっくりに見えます。ところが動きがゆっくりになればなるほど、技量が必要になります。私はこれをジェット機のエンジンに例えるのですが、ジェットエンジンは高速で回転していても、乗客には下界がゆっくり移動している様子しか見えません。それと同じです。

無駄なものを削っていくと、人間の技量が問われるようになる。物を身につけなくなると、その人本来の姿があらわになってくる。カード社会がそのような方向に行けば、面白いと思います。

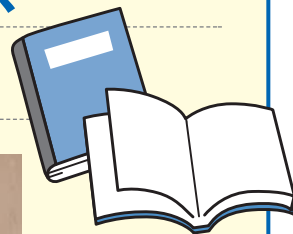
能の世界には、お金は登場しません。唯一出てくるものに「船賃」(せんちん)があります。野辺で草を刈っていた男が川を渡ろうとしていると、老人が舟を寄せてくる。老人は船賃を求めますが、男は船賃の持ち合わせがないという。すると「お金でなくてよい。あなたが持っている花の一枝を欲しい」と話し、その訳を語り出すというあらすじです。この老人は実は、戦場で死んだ項羽の幽霊で、彼が選んだ花、虞美人草には項羽との悲しい恋の話があります。お金の価値がどうという内容ではありません。

カード社会の到来が、お金以外の価値を見直すきっかけになるとよいでしょうね。



株式会社 東京リーガルマインド

書籍の購入から受講料の支払いまで、 学生、社会人がJ-Debitを利用。



「資格の総合スクール」として、首都圏をはじめ全国で42校を展開している(株)東京リーガルマインドでは、J-Debitサービス開始より決済サービスを導入。現在では受講料の支払いだけでなく、書籍等の購入でも使用されています。



LEC飯田橋支社 支社長
工藤 幸作 氏

●お客様の利便性を考えて一斉導入。

資格の取得及びキャリアアップが、社会で活躍する上で不可欠となっている時代。司法書士、公認会計士や税理士、中小企業診断士など各種国家試験合格を目指す人のための「資格の総合スクール」それが東京リーガルマインドです。同社の活動は、日本初の株式会社大学「LEC東京リーガルマインド大学」の創設、企業研修などの社会人向けキャリアアップ支援事業、ジョブカフェなどの雇用創出事業、NPO専門職ネットやNPO生涯学習など特定非営利活動法人の支援、関連会社による人材派遣紹介事業・保育事業等、非常に幅広いものとなっています。

同社がJ-Debitを導入したのは、1999年10月。全国の直営校舎の窓口に一斉に端末を用意しサービスの提供をはじめました。

「東京リーガルマインドが開いている講座の受講料は、安価なものから80万円ほどまでさまざまです。まとまったお金を持ち歩くことに不安を感じる方もいらっしゃいますので、お客様の利便性を考えJ-Debitの導入を決めました」(飯田橋支社・支社長 工藤氏)



●1人当たりの平均利用額は9万円。

現在、同社では受講料の支払い方法としては、窓口での現金、J-Debit、クレジットの他に、振込、教育ローンがあります。J-Debitによる支払いは、導入以来総売上の3%程度を推移していますが、校舎による差が大きいようです。

「首都圏、特に渋谷や新宿など大きなターミナルに近い校舎では、J-Debitがよく使われています。キャッシュカード=J-Debitという認知度が高いことと、社会人より学生が多いためカードの使用に抵抗感がないのだと思います。私が担当している飯田橋校舎は社会人が多く、J-Debitを使用しているのは30~50歳代が中心。年間の傾向を見ると、4月が多く、後の月は平均していて、1人当たりの平均利用額は9万円となっています。これに対して地方の校舎では、現金で支払うお客様がまだ大部分を占めています」(飯田橋支社・支社長 工藤氏)

受講料だけでなく、1,000円~3,000円の書籍購入にもJ-Debitが使われています。また一度J-Debitで決済した人は、再びJ-Debitを利用する傾向があるそうです。

「J-Debitについては、パンフレットやホームページで紹介するほか、講座説明会の時、支払い方法の一つとしてお話しています。キャッシュカード=J-Debitという認識が広まれば、利用するお客様も増えると思います。私たちとしては、お客様のご要望に耳を傾けながら、決済方法などのサービスをよりよくしていきたいと考えています」(飯田橋支社・支社長 工藤氏)

自由が丘商店街振興組合

決済システムのハードからソフトまでを 独自開発し、商店街の店舗に端末を無償貸与。



店主1人の小さなお店から、床面積1万平方メートルを超える大手スーパーまで1,200余りの店舗が加盟している自由が丘商店街振興組合。お客様と店舗両方の利便性を高める目的で、代表加盟店方式によるJ-Debitを導入しました。



左：岡田一弥氏 右：宮崎泰弘氏

●4億円以上の資金を投入してシステムを開発。

「15年ほど前からカード事業に取り組もうという話があり、検討を重ねていました。当初はクレジット会社と手を結びオリジナルカードを発行することを模索していましたが、店頭でカードの説明をしたり申込書を書いてもらう手間などが問題となって棚上げになっていました。また自由が丘の場合、遠方から大勢のお客様がお見えになるため、年に1、2度訪れる方のために



カードを発行するとコストが膨大にかかることもネックでした。そんな折、日本型のデビットカードサービスの話があり、

他の商店街に先駆けて導入を決めました」(自由が丘商店街振興組合副理事長 岡田氏)

振興組合では、導入1年前から準備を開始。自己資金に、国からの補助金を加え、本体システムや端末のハードとソフトを開発。自由が丘独自の決済システムを完成させました。端末は組合で購入し、希望する各店舗に無償貸与する形をとっています。

この端末はJ-Debitはもちろん、各種クレジット会社、東急TOPカードやダイエーOMCカードなど周辺地域で頻繁に使われているハウスカードにも対応しています。端末利用の決済は振興組合のシステムで中間処理を行

い、各店舗に10日毎に入金。J-Debitをはじめとする非現金売上の金額や内容が、1つのフォームに整理されて店舗に伝えられるため、経理専任者がいない店舗でも取引の流れが一目でわかるなど利便性の高いものとなっています。

●J-Debitの利用は、低額と高額に両極化。

「端末は現在500台ほどが稼働。J-Debitによる取引件数は年間4,000件前後で推移しています。特に取り扱いが多いのは、インテリア雑貨など比較的低額の商品を扱っている店舗ですが、貴金属や呉服などの超高額商品を取り扱う店舗でも使用され、両極化が進んでいるようです。今後、利用限度額制限が緩和されれば、高額決済はもっと伸びるのではないのでしょうか」(自由が丘商店街振興組合カード事業部 宮崎氏)

導入から5年。蓄積したノウハウをもとに、昨年11月、システムを2代目に刷新。同時に、自由が丘商店街振興組合が51%出資して、中心市街地活性化法に基づいたTMO(Town management Organization)を行う「J-SPIRIT(ジェイ・スピリット)」を設立し、決済システムの運営を移管しました。

「J-SPIRITは株式会社ですから、どの地域のカード事業も営むことができます。どこかの商店街がデビット決済を始めたいのであれば、代表加盟店契約を日本デビットカード推進協議会と結んでいただければ、自由が丘のシステムを利用することができます」(自由が丘商店街振興組合副理事長 岡田氏)

デビットなるほど講座… 三菱東京UFJ銀行のカードは？

旧UFJ銀行と旧東京三菱銀行が合併

旧UFJ銀行店舗で作成されたカードはご利用可能。

UFJ銀行と東京三菱銀行が、2006年1月1日に合併し、三菱東京UFJ銀行となりました。旧UFJ銀行は、J-Debitのご利用が可能でした。これに対して旧東京三菱銀行は、J-Debitはご利用いただけませんでした。合併した三菱東京UFJ銀行のJ-Debitは、以下のようになります。

○旧UFJ銀行店舗で作成されたカード

→J-Debitがご利用可能。

利用曜日：全日



利用時間：24時間（但し第3日曜日は21時～翌朝5時まで利用停止）

●旧東京三菱銀行の店舗で作成されたカード

→J-Debitはご利用になれません。

合併後のカードには、裏面に識別マークがあります。

合併前のカードをお客様がお持ちの場合、旧UFJ銀行のカードか、旧東京三菱銀行のカードかは、カード券面を見ると容易に判断できます。また合併後に発行されたカードの場合、J-Debitをご利用できるかどうかは、カード裏面の識別マークでご判断いただけます。

識別マーク		
統合以前に発行されたキャッシュカード 注)1	ご利用可能 注)2 ※カード券面がUFJ	ご利用できません ※カード券面は三菱東京UFJ
統合後に発行されたキャッシュカード ※カード券面は三菱東京UFJなので裏面の確認が必要	ご利用可能 注)2 ※カード裏面識別マークを確認	ご利用できません ※カード裏面識別マークを確認

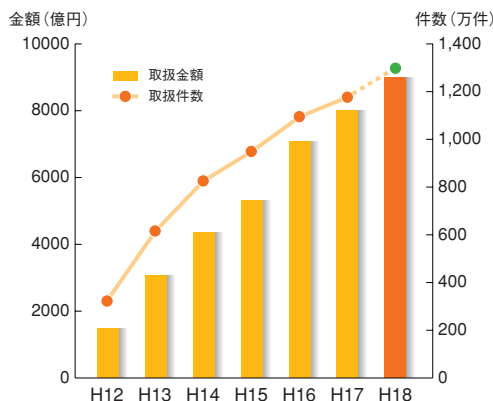
注)1：旧三和銀行・旧東海銀行のキャッシュカードも、J-Debitとしてご利用できます。

注)2：毎月第3日曜日の21:00～翌朝5:00 はご利用いただけません。

information

協議会の平成18年度事業目標が決定

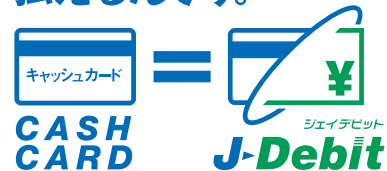
日本電子決済推進機構では、2006年3月13日に通常総会を開催し、当機構の日本デビットカード推進協議会におけるJ-Debit平成18年度事業目標を決定しました。本年は加盟店拡大と利用促進およびセキュリティ対策に継続的に取り組み、取引件数1,300万件（前年比10.5%増）取引金額9,000億円（前年比12.3%増）を目標としています。平成17年度の実績は、取引件数が1,176万件、取引金額が8,014億円に達し、ほぼ目標どおりに推移しました。



事業目標を達成するため、本年度も積極的な広報活動を展開してまいります。

全体としては「キャッシュカードでも払えるんです」をキーワードに、利用者に対して「キャッシュカード＝J-Debit」を訴求するようなキービジュアルを活用していきます。

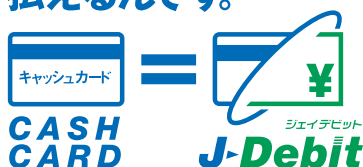
キャッシュカードでも払えるんです。



また、本年も6月1日～8月31日まで、『J-Debit使ってトクトクキャンペーン'06』を実施します。この期間中はTVCF、イッセー尾形さんを起用し東京メトロと大阪環状線へ交通広告等のマスメディアと、店頭ツールを制作する予定です。

会員の皆様からのJ-Debitに関するご質問や本誌に掲載して欲しい内容等、ご意見をお待ちしています。電話、FAX、メールなどでお気軽にお寄せください。

キャッシュカードでも払えるんです。



日本デビットカード推進協議会 事務局

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-2NTT DATA大手町ビル10F

TEL:03-3243-0781

URL <http://www.debitcard.gr.jp/> メールアドレス: info@debitcard.gr.jp

月～金 9:30～18:00 (祝日・振り替え休日ならびに12月29日～1月3日は除く)